グローバリズムという洗礼

令和６年１２月２３日
黒田インターナショナル　コンサルティング　LLC
黒田　毅

アベノミクスは。世界の金融資本への国内金融と産業の開国であり、これら現実において、今日すべての国内企業と金融がこれらの洗礼を自己に与えられているのである。

これらへの対処は、明確にそれら資本力と技術力への理解を求められるものである。しかし国内企業と金融が、これらグローバリズムへの参加を行うとき、自国基準という現実は必ずしも障害になることはないかもしれないのである。

これらは国内において完成されたシステムや基準が世界において通用することは必ず存在すると考えるためである。

製品基準や販売システムが、その優れた環境において世界に受け入れられることは必ず存在すると考える。

これら日本システムという現実が世界へその新しい変化とスタンダードを与えることは可能であると考えるためである。

グローバル基準は明らかに西洋の資本力と企業環境における判断である。しかし消費者の視点から日本基準におけるサービスや製品は完全な許容を求めることは可能であると考える。

これら現実において西洋陣営の資本力と技術力へ挑むことは、次世代という飛躍において日本企業に新しい可能性を与えることは可能であると考える。

生き残りと狩猟民族という彼等の司馬史観における理解へ、日本基準と飛躍する未来という選択において彼らのルールにおける参加と自己現実の対等性を模索することは企業の明らかな飛躍なのである。

日本企業が培った企業努力が彼らの資本力のもと無意味化されることでなく、彼らの資本基準における自己構築へ転換することでグローバルスタンダードと新しい企業経営への転換において未来を有することはでいると考える。